

# 岩手県沿岸地域における観光地の交通アクセスおよび利便性について

岩手大学 学生会員 ○藤原悠貴  
岩手大学 正会員 平井寛  
岩手大学 正会員 南正昭

## 1. はじめに

現在日本は人口減少社会に突入しており、東日本大震災によって被災した地域は人口減少がさらに著しくなり、地域経済の衰退が予想される。岩手県は三陸ジオパークの認定などによって交流人口を増加させることで地域経済の活性化を目指し観光復興に取り組んでいる。また、自然的観光資源(以下観光資源)周辺の観光施設の整備により、観光対象として誘引力をもつと言われている。一方で、観光地をつなぐアクセス道路や二次交通の整備が十分になされていないと言われている。

本研究は、岩手県沿岸 12 市町村の観光資源を対象とし、観光資源周辺の観光施設の数および、観光資源へのアクセス性を把握し考察することを目的とした。

## 2. 研究方法

本研究では観光資源を溝尾(2008)が定義した山岳、岬、洞窟、海岸、高原、滝、島嶼、河川等の 14 種類とした。また観光施設は見学施設、体験施設、土産店、宿泊施設、飲食店とした。宿泊施設、飲食店については i タウンページの情報を活用し、東京大学情報科学研究センター提供の CSV アドレスマッチングサービスを利用し、施設の住所を緯度・経度へと変換した。それ以外については岩手県観光ポータルサイトの情報を活用し、対象地点の位置データから Google map を利用し緯度経度に変換した。i タウンページと岩手県観光ポータルサイトのデータは 2014 年 12 月時点で掲載されているものを使用した。

田中(2005)は観光客が飛騨高山を回遊した際の平均距離を約 1.2km と示した。これを参考に、観光資源周辺を道路距離 1.2km 圏内とした。

観光資源へのアクセス性を把握するために今回は、各観光資源から最寄りバス停留所までの道路距離を算

出した。最寄りバス停までの道路距離を 1.2km より長いかな否かで分類した。観光資源周辺の観光施設数及び観光資源から最寄りバス停留所までの道路距離算出に当たり ESRI 社の解析ソフト ArcGIS Network analyst を使用した。道路データは「ArcGIS データコレクション 道路網 2012 岩手県版」を用いた。バス停留所は国土数値情報ダウンロードサービスの平成 22 年度のデータを使用した。

観光資源から 1.2km 圏内施設数と最寄りバス停留所から散布図を作成し考察した。

## 3. 研究結果・考察

陸前高田市、大船渡市周辺を例に観光資源から 1.2km 到達圏を図 1 に示す。

観光資源は沿岸部に比較的多く分布していることがわかる。観光施設の分布は市街地のほうに多く見受けられる。けれども観光資源が密集している地域には観光施設が多く立地していることが分かる。

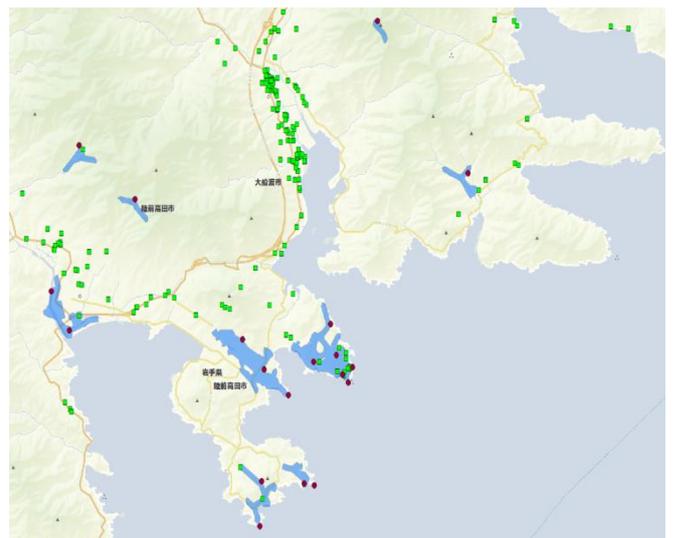


図 1:観光資源から 1.2km 到達圏

キーワード：観光 交通アクセス

連絡先:岩手大学工学部 岩手県盛岡市上田 4 丁目 3-5 電話:019-621-6453 FAX:019-621-6460

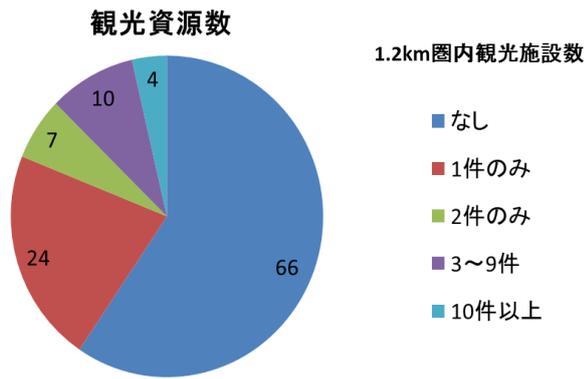


図2:観光資源周辺の施設数

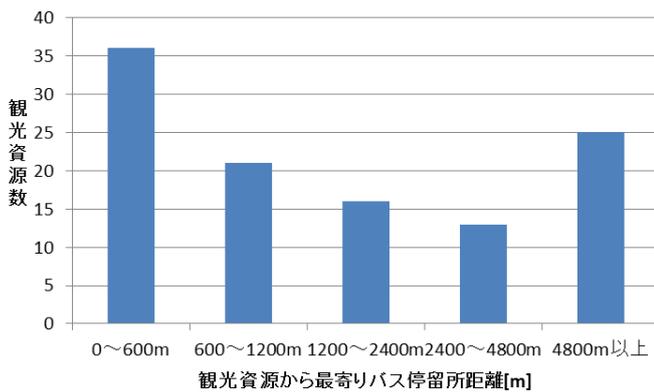


図3:バス停留所距離別観光資源数

観光資源から道路距離 1.2km 圏内の施設数の調査結果を図2に示す。

今回対象とした観光資源 1.2km 圏内に観光施設が存在しなかった観光資源は 66 地点で、全地点の 6 割に相当する結果となった。自然の景観を対象とした観光資源は市街地付近には形成されにくいためであることが予想される。

各観光資源から最寄りバス停留所までの道路距離の結果を図3に示す。最長が約 13km、最短が約 15m、平均が約 2.7km であった。観光資源から最寄りバス停留所までの道路距離が 1.2km 以下の観光資源数が 57 地点、1.2km 以上が 54 地点とほぼ同等な結果となった。

各観光資源の道路距離 1.2km 圏内の施設数と最寄りバス停留所間の道路距離の散布図を図4に示した。この散布図は3種類の観光資源に分類されると考える。最初に、左上に位置している観光資源についてだが、自家用車がなくても行くことができ、徒歩で観光施設を回遊しやすく利便性がよい観光資源であると考えられる。次に、左下の部分は自家用車がなくても行くことができるが徒歩で観光施設を回遊するには適さない観光資源であることが考えられる。最後に、右下の部分についてだが、最寄りバス停留所からの距離が遠い

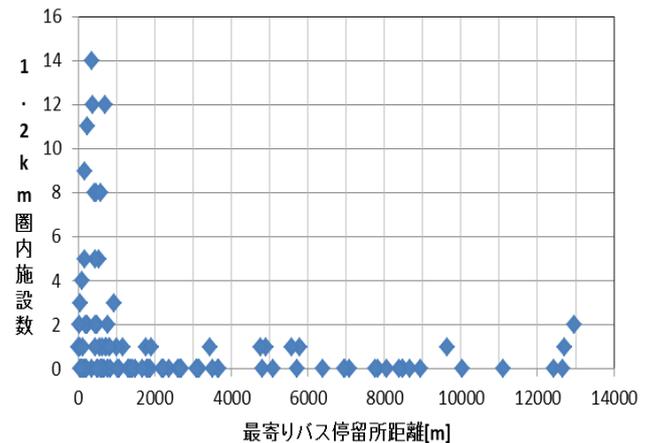


図4:観光資源散布図

ため自家用車または観光ツアーバスで周遊する際に1つの目的地に適していることが考えられる。

#### 4. おわりに

本研究は、岩手県の各観光資源を分類することができた。今後観光施設及びバス停留所を観光資源周辺に整備する際の基礎的な情報を得られた。各観光資源の観光客入込数が把握できれば観光資源の誘引力が定量化できる可能性がある。

#### 参考文献

1. 岩手県 (2014): 「みちのく岩手観光立県第2期基本計画」
2. 溝尾良隆 (2008): 「観光資源論—観光対象と資源分類に関する研究」
3. 高橋光幸(2014): 「観光資源の定義と分類に関する考察」富山国際大学現代社会学部紀要 第6巻 pp109-125
4. 田中智, 和田章仁(2005): 「観光客の回遊経路に関する考察」福井工業大学研究紀要 第35号 pp155-162
5. iタウンページ : <http://itp.ne.jp/iwate>
6. 岩手県観光ポータルサイト岩手の旅 <http://www.iwatetabi.jp/spot/>
7. 国土数値情報ダウンロードサービス <http://nlftp.mlit.go.jp/ksj/gml/datalist/KsjTmplt-P11.html>